

P-329 自己抗体陽性習慣流産患者における APA と s-Fas の推移－妊娠継続成功例と流産例についての検討－

医療法人碩済会第一産婦人科病院
竹迫俊二, 木場正博, 池田富士雄

〔目的〕原因不明習慣流産の中に抗リン脂質抗体 (APA)などの自己抗体の関与することが明らかにされている。しかし、APA 陽性の習慣流産患者の妊娠継続成功例や流産例における妊娠中の APA 等の推移についてはほとんど報告されていない。一方、APA 出現の機序と関連するとされる Soluble Fas 抗原(s-Fas)は、APA 陽性の習慣流産患者では高値をとると報告されている。そこで、当科を受診した習慣流産症例のうち、妊娠成功例と流産例の APA と s-Fas の推移を比較してみた。〔方法〕2 回以上の流産歴をもち APA などの自己抗体陽性の習慣流産患者で、妊娠継続成功者 10 例、流産者 5 例と健常者 20 例を対象に、妊娠前・妊娠判明時・妊娠 10 週及び妊娠 20 週の 4 回採血し、s-Fas は Oriental Yeast 社のキットを用いて ELISA 法で測定した。APA は 6 種類のリン脂質に対する抗体を ELISA 法で測定し、健常者の吸光度の +3SD 以上を陽性とした。〔成績〕妊娠継続成功例では、APA は全例妊娠判明時から妊娠 10 週に減少や陰性化を示し、その後はほぼ横ばいとなった。s-Fas も非妊娠時の $0.68 \pm 0.15 \text{ ng/ml}$ (Mean \pm SD) から妊娠 5 週で 0.55 ± 0.06 、妊娠 10 週で 0.53 ± 0.02 へと減少し APA とほぼ同様の傾向を示した。流産例では、妊娠判明時から妊娠 20 週まで APA は無変化か増加傾向にあったが、s-Fas には一定の傾向がみられなかった。〔結論〕APA と s-Fas は妊娠予後を予測するのに有用であること、また、妊娠成功例では APA などの自己抗体産生と s-Fas を抑制する何らかの down regulation が作用している可能性が示唆された。

P-330 Free radical による臍帯動脈血管の Vasospastic 作用に関する検討－特に Superoxide, Peroxynitrite の影響－

高知医大
渡辺員支, 岡谷裕二, 相良祐輔

〔目的〕本学会で妊娠中毒症で產生の亢進がみられる Free radical (OH^\bullet) の臍帯血管トーヌスに対する Vasospastic 作用を報告してきた。今回は更に radical 種として Superoxide (O_2^-) および、 O_2^- と Nitric oxide との反応産物である Peroxynitrite (ONOO $^-$) に注目し血管トーヌスへの影響を検討した。〔方法〕正常正期産の臍帯動脈ラセン条片を用い 20mM KCl による最大収縮後、①NO の產生阻害剤の L-N^G-monomethylarginine (LNMA, $2 \times 10^{-4} \text{ M}$) を、② O_2^- 產生源として Hypoxanthine (H, $50 \mu\text{M}$) + Xanthineoxidase (X, 0.02 u/ml) を投与した。③ LNMA 前処置し②をおこなった。④ H+X を前処置し NO 產生を刺激する Ca ionophore A23187 (CI, 10^{-5} M) による弛緩反応をみた。⑤ ONOO $^-$ を產生する SIN-1 ($0.1 \sim 10 \mu\text{M}$) を連続投与した。⑥ NO を消去する Hemoglobin (HB, $3 \mu\text{M}$) 又は cGMP 產生阻害剤の methylenblue (MB, $10 \mu\text{M}$) を前処置し⑤を行った。〔成績〕①②、LNMA, H+X で各々 $21.4 \pm 10.2\%$, $35.3 \pm 10.6\%$ の張力の増加がみられた。③ LNMA により H+X の張力増加は、 $5.5 \pm 3.2\%$ で有意に抑制された。④ CI による弛緩効果は対照群 ($57.9 \pm 13.3\%$) に比較し H+X で ($18.7 \pm 7.7\%$) 有意に抑制された。⑤ SIN-1 により用量依存的な張力の低下がみられ、 $10 \mu\text{M}$ で $-43.1 \pm 16.2\%$ に達した。⑥ HB では SIN-1 への影響はみられなかったが、MB では SIN-1 の張力低下作用は有意に減弱した。〔結論〕 O_2^- 負荷により OH^\bullet 負荷と同様に NO 活性低下に基づく Vasospastic 作用がみられた。一方 ONOO $^-$ は NO と同様に cGMP を介した血管弛緩作用を有することが強く示唆された。